

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001286		
法人名	社会福祉法人 みのり会		
事業所名	グループホーム 照日が丘	東ユニット・西ユニット	
所在地	福岡県築上郡上毛町大字安雲585-44		
自己評価作成日	平成24年3月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月26日	評価結果確定日	平成24年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人みのり会は、昭和63年特別養護老人ホームを最初に開設し、その後地域との交流活動を実施してきました。また近隣には、風光明媚な場所も多く地域活動を行う面では、環境が整えられています。その点を存分に活用し、施設内だけでなく、できるだけ地域に出た活動を行っています。また、社会福祉法人全体で行うお祭りも開催されており、法人組織の強みも積極的に利用しています。今年度は、社会福祉協議会と協力し、地域の方を対象に介護者教室を開催する事ができました。今後も、地域の方に貢献できる事が無いかを考えていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム照日が丘は、高台に面した広大な敷地内に、同法人が運営するショートステイ棟、デイサービス棟が併設されている。各居室からは、広々とした芝生の庭や、デイサービスの利用者の様子が眺められる。敷地内は門扉が無く、近所の子どもが遊びに來たり、地域の方が自由に立ち寄れる場所となっている。近在の同法人特別養護老人ホームと共に、法人内での行事参加や、定期的な研修を行っている。中庭で開催する夏祭り、秋祭りのふれあいの集いでは、家族、地域住民の参加があり、地域との交流を図っている。ショートステイ棟で日曜日に開催される居酒屋では、入居者もお金を所持し楽しんでる。地域での介護者教室開催にも積極的に関わり、地域の福祉拠点として、その存在を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し、理念をわかりやすく具体化し、職員と話し合う機会を持ち、共通の意識の中で取り組めるようにしている。	朝のミーティングで唱和し、理念がケアに反映されているか等、職員間で理念を共有しながら実践に結び付けている。法人内の全体会議でも、法人の理念、ホームの理念等を含んだ研修を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに積極的に参加している。買い物や散歩の際は、挨拶を交わしたり話をするように心がけている。近隣の子供や親子連れが、芝生で遊べるように働きかけている。来られた際は、苑内に入って頂いたり、利用者との交流も図っている。	敷地内で行われる夏祭りや秋祭りには、家族や地域住民の参加のもと出店もあり、積極的に地域との交流が図られている。芝生が敷かれた広い中庭は、近所の子ども達に遊び場として提供され喜ばれている。社会福祉協議会と連携して介護者教室を開催し、職員がアドバイスをを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室に参加し相談ののったり、介護に対して不安や負担軽減につながるアドバイスをを行うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果や課題に向けた取り組みも報告し、意見を頂くようにしている。今年度は、4回しか開催されず、定期的の実施できるように取り組んでいきたい。	地域包括支援センター職員、市健康福祉課職員、民生委員、法人理事、評議員の参加で開催されている。現状報告や今後の予定を報告し、意見を貰い、運営に反映させて行っている。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して、事業所の取り組みの内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得る為の貴重な機会です。職員は運営推進会議の意義を、ミーティング等で話し合い、家族にも呼びかける等して、定期的開催される事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時や運営推進会議の際に担当者に取り組みを報告したり、担当者の方からも情報を頂いている。	排泄用品給付の手続き時、ホームの現状を報告したり、法人全体としても日頃からの連携がとられている。今年度は社会福祉協議会との連携で、介護者教室も開催されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になるものを日々の中で、具体的にあげ、職員に理解できるようにしている。職員は、鍵をかける事の弊害を理解しており、行動や落ち着きがない利用者には、さりげなく見守りを行うようにしている。	日中の施錠は行われていない。外出希望や様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、共に出かけている。入居者、家族の了解を得て、ベットの肩面と、立位時の床面にセンサーを使用しているケースがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の中でどういう事が虐待になるのかを具体的に話し、職員間で注意をしながら虐待防止に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がおり、機会があるごとに職員が理解できるようにしている。	権利擁護に関する制度について、現在、活用している方もおり、法人内研修の実施や、資料の整備により、問い合わせに対応している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、十分な説明を行ない、理解して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時等声をかけ何でも言って頂けるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は職員で話し合い反映できるように努めている。	現在、家族会は無いが、家族来訪時等に意見の出し易い雰囲気作りに努めている。家族には法人事務所から利用明細が送付されている為、ホームからは写真を送り近況を報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングの中で職員の要望や意見を聞くように心がけ、反映できるようにしている。	朝の申し送り時と午後のカンファレンス時に、意見を出し合い、職員から出た意見を、管理者は法人主催の全体会議に挙げ、職員の意見を反映させて行っている。代表者が、ホームを訪問する事が多く、意見が出し易い関係にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に来る事が多く、職員に声をかけている。職員の勤務状況等も把握しており、職員が向上心を持って働けるように職能評価を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集や採用については、性別、年齢等を採用対象にはしていない。職員に対しても、一人ひとりを尊重し有する能力を認め、業務に反映できるように配慮している。	法人採用になっており、採用時の資格は問わないが、前向きな職員を希望している。法人内の異動もあり、各事業所間の連携がとられている。法人内の会議や研修の他、外部研修の参加の等、職員の資質の向上を図って行っている。職員の職能評価を行い、職員が向上心を持って、働けるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体会があり、その中で人権やその他の研修機会を設けている。	法人主催の全体会議で、人権教育や理念に添ったケアが行われているか研修を行っている。人権研修等、外部研修に参加した職員は法人の全体会議で報告し、意識を高めている。	

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修の参加は、少なかったが、内部研修等には、積極的に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会はなかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況を把握し、困っている事や不安な事を受け止め、安心して頂ける関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族の思いを受け止め、事業所としてどのような対応ができるかを話し合うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を理解したうえで、できる限り対応ができるように努めている。必要に応じて在宅時のケアマネージャーとも相談している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる力が、発揮できる場面を作るように心掛けている。その中で教わることも多くあり、共感したり感謝の気持ちを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況等、ご家族と情報が共有できるようにし、利用者ができる事を一緒に考えていけるように働きかけている。今までの家族関係を理解し、できるだけ良い関係が築けるように支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに行ったり、近所の方がデイサービスに来られた際には、出向き関係が途切れないようにしている。施設の馴染みの方とも、交流の機会を設けている。	家族の協力を得ながら、外食、お墓参り、法事、正月の帰宅等に出かけている。職員同行で、馴染みの美容院を継続して利用している方もおり、これまでの暮らしの継続を支援している。	

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合った方同士で過ごせる場面を作るようにしている。利用者同士の関係がうまくいくように職員が間に入り、働きかけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、ケアプランや支援状況を提供し、情報交換を行っている。また、ご家族からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや要望等把握するように努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている。	日頃の会話の中や、家族からの情報で、一人ひとりの把握に努めている。意思疎通の困難な入居者に対しては、その都度家族と話し合い、本人の表情、言動から気持ちを推し量り、本人本位に支援して行っている。	情報の集約をフェイスシートに記入する事が、目標達成に挙がっていましたが、引き続きアセスメント様式の工夫を行い、職員間で情報を共有した事を記録として残し、介護計画に反映していく事が期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしを知る事は、その方を理解する上で重要な事だと考え、ご家族やケアマネージャー等から情報収集している。新たな情報についても記録し、支援に繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その中でできる事を見つけ出せるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望や意見を聞き、反映するようにしているが、十分ではない。	毎日の実践は「雑記帖」という書類に記録し、各担当者は各入居者のケア記録に転記し、情報を共有して行っている。おむね半年毎のモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。	ケア記録への記載が職員間でまちまちで、解釈の違いが出ていたようです。状況の変化や要望が無い場合でも、定期的な見直しと、入居者、家族からの意見を聞く機会を設け、より具体的な介護計画作りに反映される事を望みます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や職員が気づいた事等は、個別に記録し、情報が共有できるようにしている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態やご家族の意向を配慮し、一緒に外出をしたり、面会の際、食事の提供もできるように配慮している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険以外の情報も把握し、ご家族とも相談しオムツ給付等を活用している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、今までのかかりつけ医にそのまま診て頂けるように話をしている。遠方の医療機関については、話し合いをもち、既往歴等から判断し、対応できる医療機関を紹介している。	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療が受けられる様、家族と協力して、通院介助を行ったり、往診に来てもらう等、複数の医療機関と連携をとって、支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や、状態変化に応じた対応ができるようにしている。体調変化や些細な表情の変化を見逃さないように、職員間で声をかけ合い、情報を共有できるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、支援方法の情報を医療機関に提供している。職員もできるだけ面会に行き、医師や看護師に状態を伺い、ご家族とも連絡を取りながら早く退院ができるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、主治医とご家族を交え、話し合いをもち、事業所としてできる事、できない事を説明し理解して頂いている。可能な限り、ホームでケアを行う方針であり、職員も理解している。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居者、家族、医師と連携を取りながら共有を図り、希望に添う様、支援を行っているところである。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、対応ができるようにしている。異物除去法や酸素の使い方等は、日頃から対応ができるようにしている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練等を実施し、独自でも通報の訓練を行っている。近くの団地の方にも協力をして頂ける体制を、日頃から築いている。地震等の災害時にも、適切な対応ができるように日々話している。	隣接するショートステイ棟、ディサービス棟と合同で避難訓練を定期的に行っている。高台の為、台風の避難訓練も行った。近所の団地の総会に参加し、ホームの現状を報告すると共に、非常時の相互の連携に向けた働きかけを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を常に心にとめ、尊厳を傷つける事のないようにプライバシーを尊重し、言葉使いには十分注意するように配慮している。	誇りやプライバシーを損ねる様な声かけをしていないか、朝のミーティングや、午後のカンファレンスで意見交換を行っている。各ユニット中央の事務所を、職員や入居者が通路としている為、ファイルの棚は目隠しをし鍵をかけて保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力を把握し、個々の利用者に合わせて声かけを行うようにしている。飲みたい物や、食べたい物は実際に見た頂き、選んで頂くようにしている。意思表示の困難な方には、表情を読み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を大切に、その都度声をかけ、希望に添えるようにし努めている。一人ひとりのペースやその日の体調に配慮し、対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容院で希望に合わせた、カットや毛染めをして頂けるように、連携を取っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食事作りは、利用者と相談しながら決めるようにしている。盛り付けや後片付けは、職員と一緒にいるようにしている。また、職員も利用者と一緒に食事をし、雰囲気作りを大切にしている。	法人厨房より、毎食とおやつが届けられている為、月2回の昼食と月1回の夕食作りや、おやつ作りを、ホーム内で職員と共に作り、作る事の楽しさを支援している。つぎわけや、お盆拭きなど出来る力を発揮してもらっている。広い庭での野外食も入居者の楽しみとなっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。食事が摂れなくなった場合は、看護師や栄養士と相談しながら、本人の好きな物を提供している。水分摂取の重要性も、職員が理解し提供できる種類も多く準備している。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後口腔ケアを実施している。自分でできない方には援助し、できる方にも、磨き残しがないかを確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄は、生きる意欲や自信につながる大切な支援である事を職員が理解しており、一人ひとりの排泄サイクルを把握し、介助している。誘導の際も、プライドを気づつけないように声かけにも配慮している。	排泄パターンを把握し、自尊心や羞恥心に配慮しながら、さりげない声かけを行い、トイレでの排泄の自立支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解し、薬に頼るのではなく、水分摂取に留意したり、乳製品などを摂って頂くようにしている。また、身体を動かす事にも努めている。下剤を用いる際は、主治医に相談をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望を確認し、できるだけ希望に添えるように努めている。拒否がみられる方には、声かけなど対応を工夫している。	毎日入浴準備を行い、体調に合わせて、週3回は入浴できるよう工夫している。体調の優れない入居者には、清拭等で、清潔を保つ様支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。その日の体調や表情、希望等を考慮し休息がとれるように配慮している。夜眠れない方には、温かい飲み物を飲みながら話をし、安心して頂けるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を理解している。服用時は、職員が名前を確認のうえ手渡し、服薬が確実に行った事を確認している。薬が変更になった時は、職員に伝達し状態変化等を記録し、主治医に報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を活かし、個々の能力が発揮できる場面を作っており、役割の大切さを支援している。おやつ作りや、食事作りも利用者や相談しながら行っている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの楽しみ事に合わせて、買い物や外出ができるように努めている。外食などの際は、ご家族に連絡し、一緒に行って頂くようにしている。	広大な敷地内の散歩は日常的に行われている。法人の車を借り、桜、藤、つつじ見物等には、おにぎり、オードブル持参を持参し楽しんでいる。青の洞門や耶馬溪ダムまで足を延ばし、ドライブを楽しむ事もある。おやつ作りの買い物や、入居者の買物の希望があれば、その都度対応している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの意義を理解し、ご家族とも相談しながら、小額を手元に持って頂いている。事業所で管理している方でも、買い物などの際は、自分で支払って頂くように努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるように配慮しており、ご家族にも理解を得るようにしている。ご家族や、知人から贈り物が届いた時等には、お礼の電話をしたり、手紙が届いた時には、できるだけ返事が出せるように配慮し、関係が途切れないようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心がけ、植物を飾ったり、季節感を感じて頂けるように、環境作りに努めている。	居間兼食堂は、吹き抜けの天井と、芝生の中庭や、デイサービス事業所が見渡せ、開放感のある、ゆったりとした共同空間となっている。台所は対面式となっており、入居者と職員の会話が弾んでいた。居間のコーナーには、掘り炬燵のスペースが設けられ、居心地の良い工夫がされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下、ベランダ等にソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、気の合った方達とくつろげるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用される際に、ご本人やご家族に使い慣れた物や馴染みの物が、落ち着いて生活ができる事を理解して頂き、できるだけ持ち込んで頂くようにしており、居心地の良い環境作りに努めている。	各居室入り口の表札は、花の名前が漢字で書かれ、重厚な中にも、温かい表札となっている。居室も並列ではなく、出入り口が見えにくい様、角度を付け、プライバシーへの配慮がされた設計となっている。各ユニット3部屋が畳の居室となって、それぞれ思い思いの品が持ち込まれ、その人らしい暮らしの支援が行われていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、物の配置等に配慮し、少しでも安全で自立した生活が送れるように努めている。		